



vol.21

「生死を分ける応急手当の重要性」  
救急講習会に  
参加しましょう

市消防本部  
☎③0123

## 救命の連鎖

皆さんは、一一九番通報をして救急車を要請したことがありますか？通報してから救急車が到着するまで、場所にもよりますが、平均六〜七分かかります。心臓・呼吸（息）が止まった状態で時間が経過してしまつと、命が助かる可能性は低くなつてしまいます。救急隊が到着するまでの間に応急手当をすることが、大切な命を助ける可能性を高くするのです。

早い一一九番通報・早い応急手当（心臓マッサージなど）、救急隊員の早い救急処置・医療機関での早い医療処置をスムーズな連係で行うことが、命を救うためには必要なことなのです。このことを「救命の連鎖」といい、この連鎖が

## 救命の連鎖



一つでも欠けてしまったら命を助けることができせん（左図参照）。

救命の連鎖の最初の二つの輪である「早い通報」「早い応急手当」で連鎖をつなぐのは、「あなた」にしかできないことなのです。



救急講習会に参加しましょう

日時 二月二十九日（日）  
午前八時四十五分〜正午（時間厳守）

場所 北防災センター（北消防署に隣接）

内容 心肺蘇生法など、  
応急手当の方法を習得（受講者には修了証が交付されます。）

参加費 無料

申し込み 二月二十二日

（日）までに電話、またはFAXで北消防署救急係（☎③0119・FAX⑤47064）へお申し込みください。

詳しくは、同署救急係へどうぞ。

## 知って得する

No.4

## 暮らしのアドバイス

### 子供の誤飲② ～化粧品・洗剤の場合～

好奇心が強く、目についたものを何でも口に入れてしまう幼児の誤飲事故が多発しています。

誤飲事故の中でも特に気を付けなければならないのが、化粧品や洗剤を飲んでしまった場合です。化粧品や洗剤には、多くの化学物質が含まれていて中毒を起こしやすく、的確に応急処置を行わないと大変なことになります。

子どもの様子がおかしいことに気付いたら、何をいつ飲んだのか、容器の残量などを見てどのくらいの量を飲んだのかをチェックし、それから「吐かせるか、吐かせないか」を判断します。

化粧水やオーデオロン、香水、整髪剤などの化粧品の場合なら、水を飲ませてから口を開けさせ、舌の奥を指で押さえるようにして吐かせ、その後すぐに病院

へ。

日焼け止め剤は、吐かせずに牛乳を飲ませます。口紅、クリーム、乳液、ベビーオイルは、少量であれば心配はありませんが、大量に飲み込んでしまった場合は、最寄りの救急病院に電話をかけ、指示をあおぎましょう。

洗剤は毒性が強く、命にかかわる危険があります。漂白剤、トイレ用洗剤、排水パイプ用洗剤、カビ取り剤など、強い酸性やアルカリ性のものは、吐かせることで再びのどや食道を痛めてしまうので、絶対に吐かせてはいけません。すぐに救急車を呼ぶか、病院に駆けつけましょう。子どもの意識がない場合も同様です。

食器用洗剤、洗濯用合成洗剤、クレンジャー、石けん、シャンプー、リンスは、水を飲ませてから吐かせ、病院へ。いずれの場合も、残っている薬品や容器、吐かせたときは吐しゃ物も一緒に保存して医師に見せ、適切な処置を受けることをお勧めします。

